

News Letter

SCAJニュースレター

vol.
75

会長挨拶

JBrC2023

Specialty Coffee Expo 2023

JLAC2023



SPECIALTY COFFEE ASSOCIATION OF JAPAN

SCAJニュースレター

SCAJニュースレターVol.75 2023年7月18日 発行

一般社団法人 日本スペシャルティコーヒー協会 発行

編集発行人:広報委員会 委員長 永田 卓

〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-26 住友不動産青山ビル西館7階

TEL.03-4416-8791 FAX.050-3156-2494 www.scaj.org

2023 7 NL 75



NewsLetter

SCAJニューズレター
vol.75

Contents [目次]

- | | |
|----------------------------|--------------------------------------|
| 1・目次 | 5-6・ Specialty Coffee Expo 2023 視察報告 |
| 2・会長挨拶 | 7-9・ ジャパン ラテアート チャンピオンシップ 2023 |
| 3-4・ ジャパン プリューワーズ カップ 2023 | (JLAC2023)結果報告 |
| (JBrC2023)結果報告 | |



会長挨拶

5月の連休の人出はコロナ前の水準に戻り、日常生活にも経済活動にも以前のような活気が感じられるようになってきました。

当業界でも、6月にアテネでWorld of Coffee Athens 2023が行われました。本誌がお手元に届くころには、競技会に出場した日本代表選手の活躍の様子が皆さまに伝わっていることと思います。

また、私たちも9月に開催するSCAJ2023の準備を進めています。昨年のSCAJ2022は、3年ぶりのフルスペック開催ということもあり、おかげさまで大盛況でありました。これを受け、今年についても出展お申し込みが好調で、ありがたい限りです。今年は海外からの来訪者も多数予想できることから、昨年以上の盛り上がり期待できます。

加えて、SCAJ創立20周年にあたる今年は、記念誌の発行を計画しています。これまでの歩みを振り返るとともに、当業界の将来を展望する内容とすべく準備しておりますので、完成を楽しみにお待ちください。

さて、米国ポートランドでのSpecialty Coffee Expo 2023において、現在のカップpingのプロトコルとフォームを進化させ、コーヒーのより包括的な価値の把握を目指した「Coffee Value Assessment (コーヒー価値評価)」が発表されました。私たちはこれを受け、SCAJとしてどのように対応するか検討に入っております。

今後とも会員および社員の皆さまの、協会の事業活動への変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人 日本スペシャルティコーヒー協会
会長 秋本 修治

ジャパン ブリューワーズ カップ 2023 (JBrC2023) 結果報告

6月22日(木)～24日(土)に開催されたWorld of Coffee Athens 2023におけるワールド ブリューワーズ カップ 2023 (WBrC2023)の日本代表選手選考会として、第9回となるジャパン ブリューワーズ カップ 2023 (JBrC2023)が開催されました。必修サービスの競技による予選は、東京(J.C.ビルディング)と神戸(UCCコーヒーアカデミー神戸校)で行われ、各40名、計80名の競技者が参加。そこから8名が、3月17日(金)に行われた決勝(J.C.ビルディング)に勝ち進んで優勝を争いました。これまで予選は定員60名で開催してきましたが、毎回多くの応募があり、受付開始早々にキャンセル待ちが出るため、今回から2会場で計4日間の予選としました。会場関係者および大会運営にご賛同いただきましたスポンサー企業様、またボランティアの皆さまなどの多大なご協力を得られたからこそ、無事に開催できましたこと、感謝申し上げます。

さらに審査員にも30名以上の応募があり、本競技会の注目度の高さを表しているとともに、ワールド コーヒー イベントズ(WCE)のレップによるご指導で審査員の育成が進んでいることから、競技会自体もレベルアップしていると思われます。



なお、WBrC2023ではルール規約が大きく変更されましたが、競技者募集要項の発表および審査員プログラムの開催などの対応が期間的に難しかったため、今回はWBrC2022のルール規約に準じたJBrC2023ルール規約で運営されたことを付け加えます。



ブリューワーズ カップは「コーヒーの抽出に機械的動力を伴わない手動の器具を用いる競技」であることから、さまざまな器具で多様なレシピによりコーヒーの特長を最大限に引き出すアイデアと抽出技術が見どころです。そして競技内容は、競技会から提供されたコーヒー豆、抽出水、グラインダーを使用し味覚のみを審査する必修サービスと、競技者自らが選んだコーヒー豆をプレゼンテーションとともに提供し審査するオープンサービスから成り、幅広いコーヒーの知識と経験、対応力、安定した高いレベルの抽出技術、コーヒー体験をポジティブに高める傑出した顧客サービスが求められます。決勝では必修サービスに加えオープンサービスの競技を行います。今回のプレゼンテーションのテーマでは「私の出会った素晴らしいコーヒー」「素材の本質を理解しその魅力を伝える」「生産者から飲まれる方まで思いをはせる」などが見られ、味覚の面では「質感と甘さ」にフォーカスし素材と抽出を工夫する様子も見られました。

今大会で優勝し、WBrC2023日本代表の座を勝ち取ったのは、(株)大一電化社 東京ショールームの白石 知輝バリスタです。“素晴らしいコーヒーに出会うことが喜び”と語った白石バリスタは、その「素晴らしいコーヒー」としてコスタリカ・ゲイシャ・ハニー・アナエロビックを挙げ、さらに足りないものを違う品種で補うということで、コロンビア・ブルボン・ナチュラル・カーボニックマセレーションをブレンドしました。それぞれの特長を活かすために焙煎時間を変え、加圧環境下でブレンドし、ガス抜き時間を調整して一体感を出すなど、新たなブレンドの可能性も提示していました。抽出でも高湯温の透過式と低湯温の浸漬式の組み合わせといった工夫がなされ、そのプレゼンテーションとともに審査員に対して高いコーヒー味覚体験を提供されたと思います。

そんな白石バリスタの世界大会での健闘をお祈りいたします。

コーヒーブリューワーズ委員会
谷口 肇

ジャパン ブリューワーズ カップ 2023 (JBrC2023) 決勝結果

順位	氏名	会社名	店舗名	所在地	スコア
優勝	白石 知輝	株式会社 大一電化社	東京ショールーム	東京都	143.54
2位	山本 咲良	株式会社タイソonz&カンパニー	THE ROASTERY BY NOZY COFFEE	東京都	142.83
3位	田中 恭平	アンリミテッド株式会社	UNLIMITED COFFEE BAR	東京都	142.32
4位	井上 暁文	株式会社ヒサシヤマモトコーヒー (Unir)	Unir長岡天神店	京都府	137.82
5位	望月 幹太	株式会社丸山珈琲	伊勢丹新宿プラドエビスリー店	東京都	137.31
6位	森田 晴香	—	猫じた珈琲	大阪府	136.22
7位	山本 紘奈	株式会社LiLo in veve	リロ珈琲喫茶	大阪府	129.89
8位	岩鼻 伸介	Happiece Coffee	キッチンカー本店	岩手県	125.59

Specialty Coffee Expo 2023 視察報告



2023年4月21日(金)～23日(日)に「Specialty Coffee Expo 2023」が開催され、世界各国から多くの業界関係者が訪れた。同展示会は北米最大のスペシャルティコーヒーのイベントで、コーヒー業界関係者にとって最新情報を得るための最適なプラットフォームと言える。また、世界中における「コロナ明け」のイベントであったため、生産国からの参加者も多く見受けられ、生産国と消費国とをつなぐ場としてさまざまな形で第3国におけるビジネスミーティングが行なわれていた。アジア圏



▲会場のウェルカムドリンクサービス

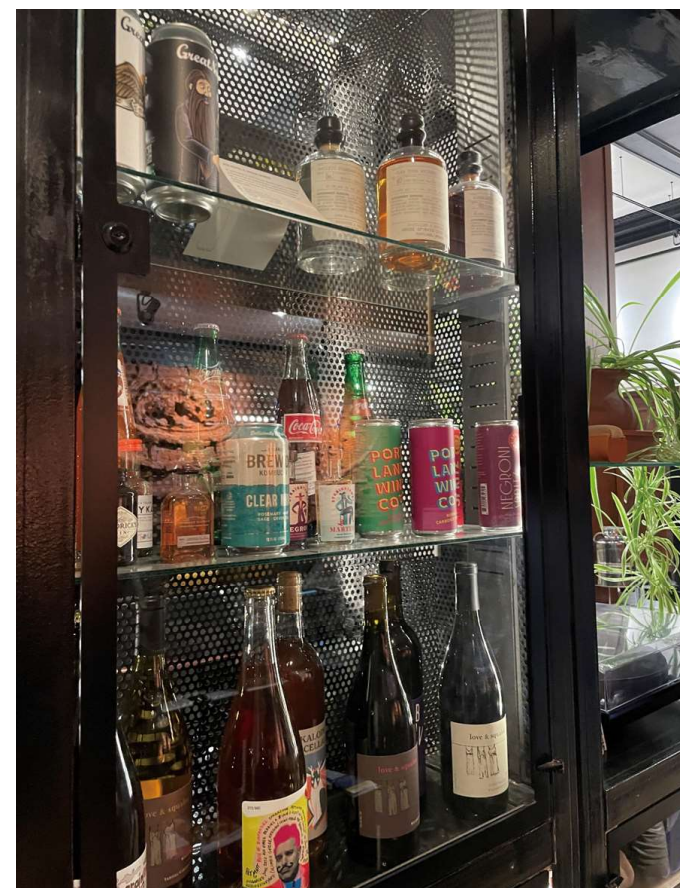
からの参加者も多く、中国、韓国、台湾などにおける需要の増加を感じた。

今年の開催地は、アメリカ西海岸オレゴン州北西部に位置するポートランド。ポートランドは人口約65万人で「最も住みたい街」にも選ばれており、全米でも数少ない「税金がかからない街」としても有名だ。そんなポートランドには古くからマイクロロースターやカフェの文化があったが、近年この地が一躍有名となったのは「サードウェーブコーヒー御三家の一つ、Stumptown Coffee Roastersが誕生したから」である。そしてこのStumptown Coffee Roastersを有名にしたのは、2006年のBest of Panama。Hacienda La EsmeraldaのGeisha種のコーヒーを、当時の最高価格\$50.25/lbで落札したのは記憶に新しい。

また、ポートランドはコーヒーのみならず「Beervana(ビール天国)」と言われるほどビールの文化も根強く、マイクロブルワリーと呼ばれるクラフトビールの醸造所が数多く存在する。さらに忘れてならないのが、ワインの生産地としても有名なことだ。オレゴン州は、アメリカワインで有名なカリフォルニアとワシントンに次ぐ生産地であり、フランスのブルゴーニュとほぼ同緯度に位置することもある、良質なワインが生産されることでも知られている。このように、オレゴン州ポートランドはコーヒーを含めた嗜好品の街であることが、街を歩いているとよくわかる。

今年のSpecialty Coffee Expo 2023の開催場所であるオレゴン・コンベンションセンターは、SCAJ2022と比較して約1.5倍程度の規模感で、コーヒー、カフェに関わる幅広い分野から約500社が出展していた。開催のタイミングは、日本で新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが2類から5類に移行する前ではあったが、日本からも多くの参加者が見受けられた。今年はRoaster VillageやGreen Coffee Buyers and Sellers Program、Cupping Exchangeに加え、別ホールではアメリカ国内の競技会(US Barista/US Brewers Cup/US Coffee in Good Spirits/US Latte Art/US Cup Tasters/US Coffee Roasting Championships)も開催されており、参加者も多く賑わっている様子だった。しかし、展示会への入場料が3日間のpassで\$355.5と一般消費者としてはなかなか参加しづらい価格などもあり、参加者や出展者にはコーヒー業界関係者が多く、B to Bがメインの印象を受けた。また、カップping専用会場では感染症予防のプロトコルが推奨されていたが、他の場所では目立った感染症予防は行われていなかった。

私は展示会初日に行われた、ACE主催の「Reunion」に参加してきた。会場にはSusie Spindler(スージー・スピンドラー)氏をはじめACE Teamの方々、世界各国のCup of Excellenceオークションや審査会への参加経験があるロースターの方々がテーブルを囲んでいた。そのテーブルには過去のCOE国際審査会の写真も飾られており、各々懐しくそれを見て回っていた。中でもCOE創設時の集合写真は、今日におけるACE、COEおよびWorld Coffee Event等Specialty Coffee cultureの発展を考えると、非常に印象的な写真であった。COEが初めて開催されてからおよそ四半世紀が過ぎたが、「世界のコーヒー業界の



▲さまざまなビバレッジ

発展においてNew generationが台頭しつつある現在も、この『根源』がなければ今の業界の発展はあり得なかったのだろう』と思うと、非常に感慨深いものがあった。

株式会社キャメル珈琲
加藤 隼次



▲スタンプタウンコーヒーのアイキャッチ



▲COEの創設メンバー

ジャパン ラテアート チャンピオンシップ 2023 (JLAC2023) 結果報告



【バリスタ委員会より】

2020年の開催から約3年ぶりとなる2023年3月24日（金）、ジャパン ラテアート チャンピオンシップ 2023 (JLAC2023) 決勝が、福岡国際センターのイベントステージにて開催されました。福岡の会場で決勝大会が行われるのは、今回が初めてです。

決勝には、同年1～2月にかけて東京、大阪、福岡の3会場で行われた各予選を勝ち抜いた6名のバリスタが進出。見事ファイナリストとなった6名のバリスタたちは、過去大会のチャンピオン2名、ファイナリスト経験者2名、決勝初出場者2名といった顔触れです。決勝では、フリーポア ラテ4杯（2杯×2柄）、デザイナー ラテ2杯を10分の時間内にプレゼンテーションを交えて提供するステーション競技と、アートバー競技で競います。大会初となる福岡での決勝ということで、会場には初めてJLAC決勝を観戦する地元福岡の観客があふれ、ファイナリストたちが描くラテアートにしばしば驚きの声が上がりがながら競技が進行しました。

熱戦の結果、優勝に輝いたのは猿田彦珈琲(株)の伊藤 大貴バリスタでした。伊藤バリスタは今大会に優勝したことで、JLAC2019、2020の優勝と合わせて、大会初の3連覇（JLAC優勝数3回も大会最多）となります。

伊藤バリスタが描いたのは、フリーポア ラテが「象」と「キリン」、デザイナー ラテが「鯨（しゃちほこ）」。「フリーポア」だけでは描くのが難しいとされる象とキリンを見事な技術を駆使して描き切り、さらにデザイナー ラテのしゃちほこでは、提供された2つのカップのラテアートがまるで写真のように同一性を持って描かれていました。

そんなJLACのラテアートに対する評価基準は、以下の6項目から成ります。

- ・提供された2杯のドリンクは同様の絵柄か
- ・外観的なフォームの質
- ・視覚的なエスプレッソとミルクのコントラスト
- ・提供されたカップに対する絵柄のバランス（位置、大きさ）
- ・難易度の達成度
- ・総合的な外観

この中でも「視覚的なエスプレッソとミルクのコントラスト」と「難易度の達成度」に関してはスコアが2倍になることから、重要度が高くなっています。

今回優勝した伊藤バリスタは、ファイナリスト6名の中で唯一、カップの中のエスプレッソをダブルショットで抽出しており、エスプレッソとミルクのコントラストが際立っていました。10分の競技時間内に全てのカップにダブルショットエスプレッソを抽出することは、タイムオーバーのリスクが非常に高い困難なオペレーションです（シングルショットであれば競技時間内に3回抽出すればよいところを、倍の6回抽出することになるため）。

さらに、フリーポアで描いた象とキリンは、通常エッチングを使用したデザイナー ラテにおいて描かれる絵柄です。そのためフリーポアだけで描くと「総合的な外観」のスコアを下げる要因となる恐れがあります。しかしその半面、成功すれば「難易度の達成度」において高いスコアを得ることができるのです。

こうしたリスクもありながら、配点比重の大きい「視覚的なエスプレッソとミルクのコントラスト」、「難易度の達成度」にフォーカスした競技をミスなく時間内に行い切ったことが、伊藤バリスタの3回目のJLAC優勝につながったのだと思います。今までに2回の世界大会に挑戦した経験を感じられる圧巻の競技でした。

伊藤バリスタにとって3度目となる世界大会の舞台は、台湾。開催は今年の11月です。世界大会での伊藤バリスタの健闘を祈ります。

バリスタ委員会
早川 雄次郎



【JLAC2023優勝者より】

JLAC2023は私にとって4回目の挑戦となり、ありがたいことにJLAC2019から続く3連覇という結果をいただくことができました。初めてJLACで優勝した年に出場したWLAC2019 Berlinでは5位、WLAC2022 Milanでは7位という結果に終わり、自分の中ではまだやり切れていない気持ちが残っていたため、再度挑戦することを決意した今大会。「3連覇がかかっている」というプレッシャーがある中でも、楽しみながら競技ができたと思います。また、今回のJLAC2023は初の福岡での開催ということで、東京や関西以外の都市でもラテアートに情熱を注ぐバリスタが多くいることも体感でき、私自身の刺激にもなりました。今後もラテアートを通してより多くの方がスペシャルティコーヒーに興味を持ち、好きになってくれるよう活動していきたいと思っています。

加えて今回の大会では、自分のことだけでなく後輩の育成もしながら準備をしてきました。自分の後進として活躍できるバリスタを育てながらの競技となったため、私個人としては新たな挑戦にもなった年でした。しかも、ありがたいことに1、2、3位に弊社バリスタが入賞するという結果も残すことができました。JLACを3連覇したチャンピオンとして、今まで以上に責任を持つことができるようになったと実感しております。

続くWLAC2023 Taipei では、2度世界大会に出場した経験を活かして、今度こそ世界チャンピオンになれるようしっかり競技に臨みたいと思います。思えば、これまでの2019、2022年大会はヨーロッパでの開催だったため、特にミルクの影響を受けるラテアート

チャンピオンシップでは調整が困難な環境での競技でした。成分や生産処理なども全く違うミルクを現地に着いてから確認し、直前の練習で調整するという中で対応力が重要でもありました。しかし本年のWLAC開催地はTaipei。もちろん調整の必要はあるものの、日本人バリスタとしては同じアジア圏で事前にミルクの感覚なども確認した上で臨めるため、より競技に集中できる環境になると考えています。デザインやプレゼンテーションなどの戦略面も非常に重要な要素ですが、今まで経験してきた世界大会以上に現地でのパフォーマンスを上げられるよう、しっかり準備をして臨みたいと考えております。

そして11月に開催されるWLACでは良い結果とともに帰国し、皆さまにその結果を報告できるよう、日本代表のバリスタとして責任を持って臨む所存です。至らぬ点もあるかと思いますが、精一杯競技してまいりますのでご声援のほどよろしくお願い申し上げます。

猿田彦珈琲株式会社 The Bridge原宿駅店
伊藤 大貴





ジャパン ラテアート チャンピオンシップ 2023 (JLAC2023) 決勝結果

順位	氏名	会社名	店舗名	所在地	スコア
優勝	伊藤 大貴	猿田彦珈琲株式会社	The Bridge原宿駅店	東京都	569.5
2位	野澤 隆成	猿田彦珈琲株式会社	神奈川県立図書館店	神奈川県	518.5
3位	藤野 将人	猿田彦珈琲株式会社	猿田彦珈琲とティキタカアイスクリームのお店	東京都	486.5
4位	林 伸治	株式会社マーブル	DRIP & DROP COFFEE SUPPLY	京都府	467.5
5位	松本 大樹	TRANSIT GENERAL OFFICE INC.	DOWNSTAIRS COFFEE	大阪府	422.0
6位	丹後 雅弥	BON POINT BLEU	—	福岡県	375.5

Editor's note (編集後記)

広報委員会／永田 卓

2023年も半ばを過ぎましたが、ニューズレターvol.75も無事にお届けできました。

さて、いつものことながら時間の流れが年々早くなってゆくような気がします。これはあくまでも加齢がなせること(?)ですが、こんな時に思い出すのは私の大好きな作家、筒井 康隆氏の「急流」という初期の作品です。この作品は、「ある日突然時間の流れが速くなり、最後には太陽と月がグルグル巡って時間が滝から流れ落ちてゆく」というストーリーの短編です。我が青春時代には、電車の中で笑いを堪えてこうした筒井 康隆氏のSF小説を乱読していました。しかし今振り返ると、核兵器の拡散をテーマにした「アフリカの爆弾」や、感染症の世界的拡散を書いた「コレラ」、現代のSNS社会を予言したような「俺に関する噂」など、半世紀近く前の当時にギャグSF(?)として書かれた小説が、現実のものと重なって見え、笑いごとではなく恐ろしいことだったのだと気が付かされます。反対にロボットや無人の交通機関、惑星探査など数十年前にはSFの世界の産物だったものが現実化しているのは、我々に明るい未来を示していたのかもしれませんが、筒井氏にご興味を持たれた方は、ぜひご一読を。ただし、くれぐれも電車の中など人前で読むのは避けることをお勧めします(笑)

今地球上で深刻化しているさまざまな問題がどのように解決されてゆくのか、そんなヒントを与えてくれている本はないのかしら、と思い今日も本屋さんを巡っています。

今年SCAJは
設立20周年
を迎えます!

アジア最大のスペシャルティコーヒーイベント!!

SCAJ ワールド スペシャルティコーヒー カンファレンス アンド エキシビション 2023

お陰様で、昨年を上回る **約300社 480ブース** のお申し込みがあり、
一部のコーナーを南展示棟へ移動して開催します。今年は **例年の1.3倍の広さ** となります。

会期・会場

出展ブース

9.27水～29金

東京ビックサイト 西展示棟 3・4ホール

Coffee Village

9.28木～30土

東京ビックサイト 南展示棟 3ホール

南3ホールのみ開催日が変わります

入場料(会期共通)

事前登録 1,500円(税込)
当日 2,500円(税込)
招待状をお持ちの方は無料

新設ホールの見どころ

新設南3ホールでは、前回から約2倍に拡大した人気の『Coffee Village』を9月28日(木)～30日(土)の3日間で開催。
日本全国、海外から約100の小規模カフェ & ロースターやコーヒー関連商材などが集まる注目のエリアです。
ほかにも各種イベント、コーヒーブリューバー、グッズ販売コーナーや充実したレストスペースをご用意します。



各種競技会 今年も3箇所のイベントステージで、6つの競技会を開催!

Japan Barista Championship semi-finals	9/27	ステージB 西
Japan Siphonist Championship	9/28	ステージA 西
Japan Barista Championship finals	9/28	ステージB 西
Roast Masters Team Challenge	9/28	ステージC 南
World Siphonist Championship	9/29	ステージA 西
Japan Cup Tasters Championship	9/29	ステージB 西
Japan Hand Drip Championship	9/29	ステージC 南



主催 一般社団法人日本スペシャルティコーヒー協会

お問合せ

SCAJ展示会事務局 info@scajconference.jp
(株)イベントアンドコンベンションハウス

詳細はこちらから

<https://scajconference.jp/>

出展申込・来場登録・各種セミナー申込は展示会ウェブサイト受付!

